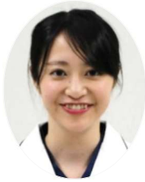
２年次
（令和２年４月就任）

初期研修医
①氏名②出身大学/卒年

①岡崎　太郎
②帝京大学/令和２年卒


①岡田　樹
②福島県立医科大/令和２年卒

①小見山　雅道
②岩手医科大/令和２年卒

①山内　麻央
②千葉大学/令和２年卒

ノースポール／当院新館中庭

１年次
（令和３年４月就任）

①古賀　大輝
②福島県立医科大/令和３卒

①重田　悠登
②秋田大学/令和３年卒

①土屋　太一
②千葉大学/令和３年卒

①中村　賢史
②埼玉医科大/令和３年卒

①八田　宗粋
②千葉大学/令和３年卒

2021年度　千葉中央メディカルセンターの新しい仲間たちです♪

４月１日（木）、誠馨会グループ「千葉中央看護専門学校」において当院の入職式が執り行われました。今年度は、医師、看護師、看護補助者、薬剤師、事務員など 53名のフレッシュな仲間たちを迎えることができました。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

面会禁止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症流行にともなう面会禁止について

新型コロナウイルス感染防止のため、当面の間、下記に該当される方以外の**ご面会を禁止**させていただいております。

【面会可能な方】 **面会者は1名のみ**

①入退院時の付き添い

②手術日の付き添い

③病院から来院の要請があった方

✓ ご面会の方は **39 番総合相談サービスセンター**で検温のうえ入館証（シール）をお受け取り下さい。

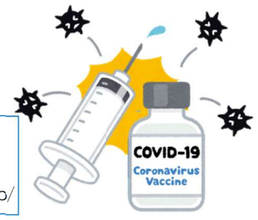
✓ ご面会時には必ずマスクを着用し、手指消毒もお願いします。

✓ 最新情報は、当院ホームページをご覧ください。

◆◆◆　編集後記　◆◆◆

新型コロナワクチンの接種がいよいよ国内で始まりました。まずは医療従事者に先行接種され、65 歳以上の高齢者、基礎疾患を有する方や高齢者施設等で従事されている方、16 歳以上の一般の方の順で進められていきます。当院では1回目の接種を4月に予定しています。
〝If Winter comes, can Spring be far behind?〟「冬来りなば 春遠からじ」
ワクチン接種により、新型コロナ感染症の流行収束という皆が待ち望む「春」の訪れがそう遠くないことを期待しています。

CCMC ニュース 75 号
＜ 編集 ＞ 広報委員会
https://www.ccmc.seikei-kai.or.jp/



◆当院へのご意見・ご要望は 総合相談サービスセンターにお寄せください。043-232-3691㈹

千葉中央 メディカルセンター ニュース 第 75 号

Chiba Central Medical Center

令和３年 4月20日

企画：千葉中央メディカルセンター　広報委員会
千葉市若葉区加曽利町 1835-1　043(232)3691

1面 ： 院長新年度挨拶　　2面 ／ 3面 ／ 4面 ： 常勤医師紹介

２０２１ 年　院 長 新 年 度 あ い さ つ

すでにご報告の通り、本年２月に院内において新型コロナウイルスによる集団感染が発生しました。救急患者さんが入院後に発症し、介護を必要とする患者さんを中心に感染が拡大していったものと考えられます。皆さまには多大なご心配とご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げますとともに、引き続き感染対策に全力を尽くして参ります。

当院における新型コロナウイルス感染症への対応の現状についてお話しします。

昨年２月より保健所からの検査依頼を中心に新型コロナに対する診療を開始しました。その後、PCR 検査体制を徐々に整備し、現在は一日 150 件以上の検査が可能な体制にあります。また、この２月には簡易 PCR 検査装置を導入し、緊急時にも約１時間で感染の有無を判定することができるようになりました。現在、救急を含む全ての入院患者さんに PCR 検査を実施させていただいております。

PCR 検査は最も重要な診断方法の一つですが、その結果のみで全てが判断できるわけではありません。陰性確認の翌日に発症した症例、何度も検査を繰り返して初めて陽性が判明した症例、感染力がなくなった後も数週間にわたり陽性であった症例など様々な症例があり、症状、血液検査、胸部 CT 所見などを踏まえて結果を正しく解釈する必要があります。

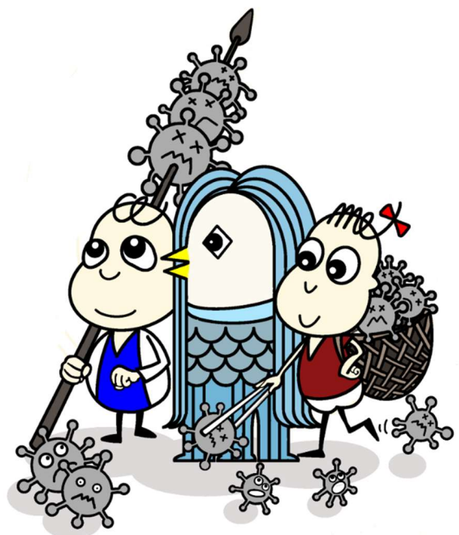
昨年４月に陰圧室２室を含む感染症病棟を整備し、これまでに約 100 人の陽性患者さんを受け入れてきました。この３月には、中等症以上の患者さんや合併症をもつ患者さんの入院にも対応できるように、集中治療室内に陰圧換気装置を備えた病室を整備しました。

これまで多くの方々からご指摘のありました病院入口での検温ですが、院内の感染対策会議でも繰り返し議論してきた結果、現時点での実施の予定はありません。感染している人の多くが検温時に熱がないこと、発熱患者さんのほとんどは新型コロナ以外の疾患であること、発熱の基準には個人差があること、体表温は外気などの環境に左右されることなどから、検温による感染防止効果は極めて限定的であり、スムースな外来診療がより重要であると考えております。

来院される患者さんにおきましては、検温など日々の健康チェックを行っていただき、発熱など体調不良がある場合はお申し出ください。また、マスクの着用および手指衛生につきまして引き続きご協力のほどお願い申し上げます。

感染の有無にかかわらず、全ての患者さんの治療や感染防止に全力を尽くすことは医療者として当然のことであります。それでも、患者さんへの感染拡大を防ぎ、なおかつ自分自身を守りながら、食事や排泄の介助、口腔ケアや清拭など日々のケアを懸命に行う看護師たちの心身の負担は想像を絶するものです。皆さまには、このことを是非ともご理解いただきたいと思います。

今後も皆さまが安心して受診できる病院、そして、職員が笑顔で皆さまを迎えられる病院を目指して努力して参ります。
ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。


Illustrated by Kazumasa Fukuda